

平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 翻訳センター
 コード番号 2483 URL <http://www.honyakuctr.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 郁男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長 (氏名) 中本 宏

TEL 06-6282-5013

四半期報告書提出予定日 平成26年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	2,108	1.2	16	△78.2	16	△77.6	1	△96.1
26年3月期第1四半期	2,082	49.8	75	97.2	73	94.7	37	91.9

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 △3百万円 (—%) 26年3月期第1四半期 47百万円 (88.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	0.86	—
26年3月期第1四半期	22.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第1四半期	3,840	2,509	65.3
26年3月期	4,063	2,587	63.6

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 2,509百万円 26年3月期 2,587百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	45.00	45.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	0.00	—	48.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,470	6.8	150	2.4	150	4.8	80	14.2	47.49
通期	9,400	7.1	480	31.7	480	33.3	270	50.8	160.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期1Q	1,684,500 株	26年3月期	1,684,500 株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	— 株	26年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期1Q	1,684,500 株	26年3月期1Q	1,684,500 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引上げに伴う減速の懸念があったものの、政府による各種経済対策および金融政策の効果により、企業収益の増加から設備投資や雇用・所得環境に改善が見られるなど緩やかな回復基調で推移しました。

このような環境のもと、当社グループでは今期を最終期とする第二次中期経営計画において「すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ」という経営ビジョンを掲げ、言葉に関する事業領域の拡大による新たな価値創造を推し進め、企業のグローバル展開に伴う翻訳・通訳需要の獲得に努めてまいりました。

これらの結果、当社グループのコアビジネスである翻訳事業の売上高は前年同期比10.4%増加し、通訳事業では前年同期比51.8%増加するなど好調に推移したものの、派遣事業が前年同期比7.3%減少と低調に推移したことから、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期比1.2%増の2,108百万円となりました。一方、利益面では販管費が前年同期比7.3%増加したことから、営業利益は前年同期比78.2%減の16百万円、経常利益は前年同期比77.6%減の16百万円、四半期純利益は前年同期比96.1%減の1百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、株式会社アイ・エス・エスを中心としたコンベンション事業を報告セグメントの区分に変更しております。以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

① 翻訳事業

特許分野では、主要顧客である大手電機メーカーからの発注が一時的に減少したものの、企業の知的財産関連部署に対する新規顧客開拓が進んだことから、売上高は前年同期比2.8%増の412百万円となりました。医薬分野では、新薬申請資料の翻訳において、プリファードベンダー（注）契約に基づく外資系メガ・ファーマからの受注が好調に推移したことに加え、国内の製薬会社からも安定した受注を獲得したことから、売上高は前年同期比8.8%増の504百万円となりました。工業分野では、株式会社アイタスから譲受したローカライズ案件が堅調に推移したことに加え、売上の軸となる自動車関連企業において複数の部品メーカーから大型のスポット案件を獲得したため、売上高は前年同期比32.3%増の458百万円となりました。金融・法務分野では、法律事務所からの安定した受注や、かねてより注力している企業の管理関連部署への営業活動は奏功したものの、前年同期に獲得した保険関連のスポット案件の反動から、売上高は前年同期比14.5%減の127百万円となりました。これらの結果、翻訳事業の売上高は前年同期比10.4%増の1,503百万円となりました。

② 派遣事業

派遣事業は語学スキルの高い人材を派遣する人材派遣事業と主に外資系企業に人材を紹介する人材紹介事業の2つから構成されています。派遣事業においては、主に保険や銀行などの金融関連企業や情報処理会社、完成車メーカーなどの既存顧客から計画を上回る受注を獲得したため、売上は好調に推移いたしました。一方、人材紹介事業においては、企業の求人増加しているもののニーズに合致する候補者の確保が及ばず、売上が低調に推移いたしました。これらの結果、売上高は前年同期比7.3%減の334百万円となりました。

③ 通訳事業

通訳事業においては、製薬会社や大手通信関連企業、保険会社からの受注が好調に推移したことから、売上高は前年同期比51.8%増の163百万円となりました。

④ 語学教育事業

語学教育事業においては、株式会社アイ・エス・エス・インスティテュートの通訳者・翻訳者育成での4月～9月開講のレギュラーコースの受講申込は計画通り集客できておりますが、授業数の変動などにより、売上高は前年同期比12.4%減の55百万円となりました。

⑤ コンベンション事業

コンベンション事業においては、受注は堅調に推移しておりますが、前年同期に受注した大型スポット案件（「第5回アフリカ開発会議（通称：TICAD V）」）の反動により、売上高は前年同期比82.3%減の30百万円となりました。

⑥ その他

その他のセグメントにおいては、外国への特許出願に伴う明細書の作成や出願手続きを行う株式会社外国出願支援サービスが好調に推移したことなどから、売上高は前年同期比18.4%増の22百万円となりました。

（注）プリファードベンダーとは、企業が優秀な人的リソースの確保と費用低減を狙い、優先的に業務を委託する特定の調達先（ベンダー）を指す。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は3,120百万円となり、前連結会計年度末に比べ178百万円減少いたしました。

これは主に未払法人税等の支払いおよび配当金の支払いなどにより、現金及び預金が減少したことによるものです。固定資産は719百万円となり、前連結会計年度末に比べ44百万円減少いたしました。これは主に差入保証金が減少したことおよび、償却によりのれんが減少したことによるものであります。

この結果、総資産は3,840百万円となり、前連結会計年度末に比べ223百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は1,144百万円となり、前連結会計年度末に比べ134百万円減少いたしました。これは主に預り金が増加したものの、未払金および未払法人税等が減少したことによるものであります。固定負債は186百万円となり、前連結会計年度末に比べ9百万円減少いたしました。これは主に年金資産の積立により退職給付引当金が減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,330百万円となり、前連結会計年度末に比べ144百万円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は2,509百万円となり、前連結会計年度末に比べ78百万円減少いたしました。これは主に剰余金の配当75百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期の業績予想については、現時点では平成26年5月14日の決算発表時に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,663,339	1,645,875
受取手形及び売掛金（純額）	1,290,045	1,197,658
仕掛品	88,594	98,281
その他	257,220	178,803
流動資産合計	3,299,198	3,120,618
固定資産		
有形固定資産	188,689	185,698
無形固定資産		
のれん	216,826	201,325
その他	70,686	62,085
無形固定資産合計	287,512	263,410
投資その他の資産	287,768	270,410
固定資産合計	763,970	719,520
資産合計	4,063,169	3,840,139
負債の部		
流動負債		
買掛金	602,807	579,797
未払法人税等	100,293	27,745
賞与引当金	133,198	92,759
その他	442,852	444,257
流動負債合計	1,279,151	1,144,559
固定負債		
役員退職慰労引当金	35,400	35,400
退職給付に係る負債	106,253	99,648
その他	54,391	51,365
固定負債合計	196,044	186,414
負債合計	1,475,195	1,330,973
純資産の部		
株主資本		
資本金	588,443	588,443
資本剰余金	478,823	478,823
利益剰余金	1,492,794	1,418,447
株主資本合計	2,560,060	2,485,713
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	27,914	23,452
その他の包括利益累計額合計	27,914	23,452
純資産合計	2,587,974	2,509,165
負債純資産合計	4,063,169	3,840,139

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第1四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自平成26年4月1日 至平成26年6月30日）
売上高	2,082,973	2,108,795
売上原価	1,174,078	1,197,315
売上総利益	908,894	911,479
販売費及び一般管理費	833,633	895,086
営業利益	75,261	16,393
営業外収益		
受取利息	88	154
受取配当金	1,000	500
その他	215	99
営業外収益合計	1,303	754
営業外費用		
為替差損	3,181	678
その他	—	51
営業外費用合計	3,181	730
経常利益	73,383	16,417
税金等調整前四半期純利益	73,383	16,417
法人税等	35,941	14,961
少数株主損益調整前四半期純利益	37,441	1,455
少数株主損失（△）	△116	—
四半期純利益	37,558	1,455

（四半期連結包括利益計算書）

（第1四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	37,441	1,455
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△753	—
為替換算調整勘定	10,582	△4,461
その他の包括利益合計	9,828	△4,461
四半期包括利益	47,270	△3,005
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	46,999	△3,005
少数株主に係る四半期包括利益	270	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	通訳事業	語学教育 事業	コンベン ション事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	1,360,377	360,591	107,499	63,612	172,162	2,064,243	18,729	2,082,973
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	732	7,521	3,223	—	—	11,476	12,558	24,035
計	1,361,110	368,113	110,722	63,612	172,162	2,075,720	31,287	2,107,008
セグメント利益	17,925	44,210	9,397	14,504	3,911	89,949	4,315	94,265

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外国出願支援事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	89,949
「その他」の区分の利益	4,315
セグメント間取引消去	△2,970
のれんの償却額	△16,034
四半期連結損益計算書の営業利益	75,261

II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	通訳事業	語学教育 事業	コンベン ション事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	1,503,079	334,098	163,280	55,705	30,447	2,086,612	22,182	2,108,795
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	7,042	4,953	7,229	—	—	19,226	9,281	28,507
計	1,510,122	339,052	170,510	55,705	30,447	2,105,838	31,463	2,137,302
セグメント利益 又は損失(△)	24,383	△6,275	16,343	6,803	△12,293	28,961	△4,113	24,848

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外国出願支援事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	28,961
「その他」の区分の損失(△)	△4,113
セグメント間取引消去	5,508
のれんの償却額	△13,962
四半期連結損益計算書の営業利益	16,393

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第2四半期連結会計期間より、「その他」に含めていた「通訳事業」について、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

また、当第1四半期連結会計期間より、「その他」に含めていた「コンベンション事業」について、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

（重要な後発事象）

重要な子会社の設立

当社は、平成26年8月12日開催の取締役会において、下記のとおり子会社の設立を決議いたしました。

1. 設立の目的

当社グループの主力事業である翻訳事業（医薬分野）において、医薬品承認申請・取得に関するメディカルライティング業務を高付加価値サービスの一環として行っておりましたが、当該業務を専門に受託する子会社を新たに設立し、製薬会社のニーズに質・量ともに応えられる体制を確立することによって、医薬分野のさらなる専門性の強化を図ります。

2. 子会社の概要

(1) 名称

株式会社パナシア

(2) 事業内容

メディカルライティング業務

(3) 設立時期

平成26年10月（予定）

(4) 資本金

45,000千円（当社100%出資）